静かな都市に住む快楽
保育園建設反対の街

今から51年前の2017年のある国の東京という街では、保育園建設の反対運動が、激しく過熱していました。

近隣住民は一体となり、
開園後、園児が発する奇声、送り迎えの、保護者の話し声、
園児たちに見られることの恐怖、カレーなどの給食の匂い、
保育園が出来る事によって、土地自体の値段が下がるという噂、

数々の不安、恐怖が挙げられ、署名運動、街宣活動、横断幕、あらゆる反対行動が起こりました。
ついに、ある街では、待機児童解消を掲げる政治家に火炎瓶が投げられるという事件まで起こりました。

-2018年9月26日-
東京都は特別区として、「静かな街に暮らす快楽区」を設けました。
静かな街づくりをコンセプトに、
保育園の新規建設の永久的な禁止、既存の保育園の段階的廃園、騒音規制の強化などを条例として定めました。

静かな街を希求していた人々は、その街に移り住み、一方で、子育て世代は、揃ってその街から出て行きました。

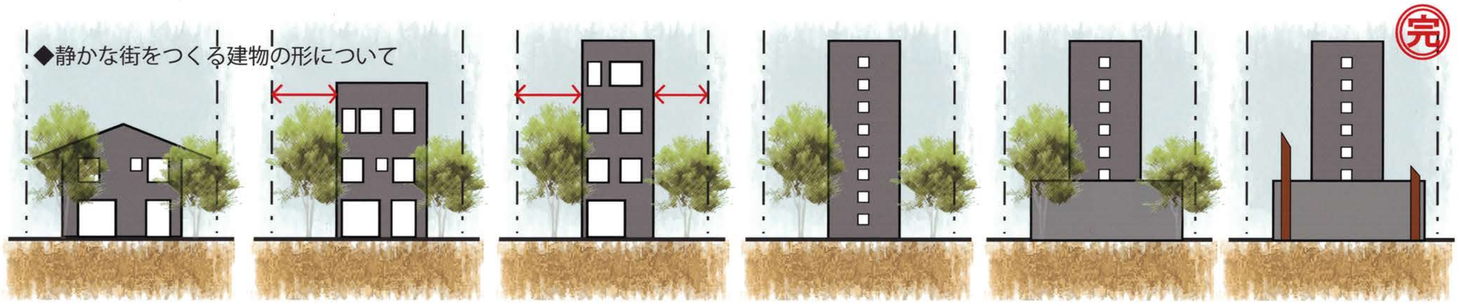
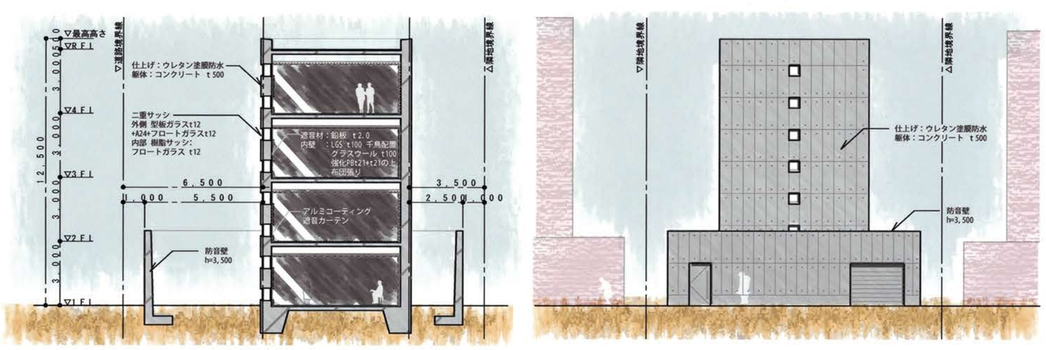
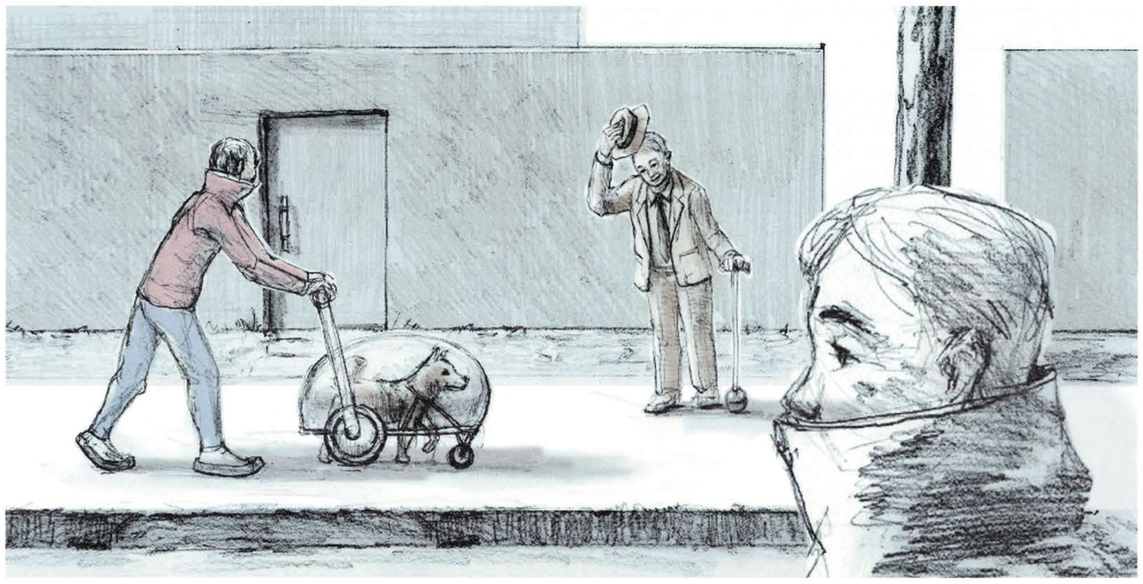
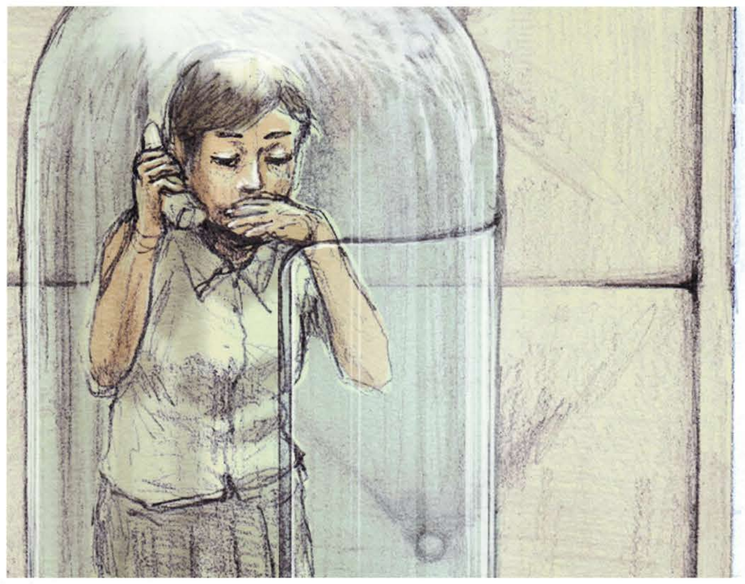
-特別区の制定から51年-、
この街の人口は、東京のどの街よりも人口密度が少ない、より静かな街へとなっています。
老年人口の比率が98%を占め、そのうち8割が90歳を超えています。
人々は静寂にこそ、価値を求め、静かな静かな街で、物音を立てずに暮らしています。

窓ガラスには、他人の家を覗き込んでしまわないように、昼間でも分厚い遮光カーテンがしめられています。
空気を入れ替えるときには、2週間前に窓を開ける申請が必要です。
外に出るときは、突然の咳などで音が出てしまわないように、マスクをつけます。
ご老人の杖の先端にはゴム板の接着が義務付けられています。
鳥の鳴き声がうるさいと、街の全ての木も伐採されました。
他人を思いやり、静かな街づくりのみを求めた家々は、独特な建物形状となり、都市景観をつくっています。
静かな、静かなコンクリートの建物は、偶然にも、ある国の何かに似ています。

暮らし始めて、30年がたったご老人は言います。
「静かな街で、本当に過ごしやすい。　家に居るときは、外の雨の音すら聞こえない。
時々、窓を開けると、遠くの遠くの物音まで聞こえるんだ。　なんだか、最近聴力が発達しているみたいなんだ。
そう、夜電気を消して眠る前に、海外に住んでいるはずの孫がしゃべりかけてくる声が聞こえる。
そりゃ、もちろん、孫の声はかわいいよ。」

⇔にぎやかな都市

◆静かな街をつくる建物の形について



静かな街を、みんなで
つくりましょう
➔
隣地から
建物を離して
➔
道路からも
建物を離して
➔
窓は小さく道路側に
視線が通らない位置
➔
庭には高さ3mの
防音壁を建てて
➔
鳥の泣き声がうるさいから
木を切りましょう